



富士市立中央病院
Fuji City General Hospital



学校法人
慈恵大学

See the patients, not the disease. 病気を診ずして病人を診よ

富士市立中央病院と学校法人慈恵大学の協定について

富士市立中央病院と学校法人慈恵大学は、医学教育における連携を図るため協定を締結いたします。

2016年8月29日

富士市立中央病院

学校法人慈恵大学

富士市立中央病院（開設者 富士市長：小長井 義正）と学校法人慈恵大学（理事長：栗原 敏、以下「慈恵大学」と言います）は、平成28年9月1日付で医学教育における連携を図るため協定を締結いたします。本日8月29日に富士市役所において、協定締結式を行いました。

本協定により、富士市立中央病院と慈恵大学が従来から行ってきた地域医療と若手医師の臨床教育における連携が拡充され、卒前から卒後にわたる医学教育の充実を図りつつ、地域医療に貢献する新たな連携モデルが構築されます。この連携モデルの構築は、平成24年度文部科学省のモデル事業「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」テーマB「グローバルな医学教育認証に対応した診療参加型臨床実習の充実」に採択された東京慈恵会医科大学の取組「参加型臨床実習のための系統的教育の構築」によって行われるものです。

【本協定の概要】

東京慈恵会医科大学医学部医学科の医学教育の充実を図るため、富士市立中央病院は教育病院として医学生への診療参加型臨床実習の一部を受け入れます。診療参加型臨床実習は、医学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら、医師としての知識・技能・態度および思考法の基本を学ぶことを目的としています。この連携により、医学生の臨床実習期間は従来の62週間から75週間に拡充されます。医学生は、臨床能力を高めるとともに地域医療の実際と重要性を学ぶことになり、将来それらの成果が地域の皆さんに還元されることが期待されます。

【慈恵大学の歴史・概要・特徴】

東京慈恵会医科大学は、1881(明治14)年に高木兼寛によって設立された歴史ある私立医科大学です。1885年には看護婦教育所を開設。その後学校法人慈恵大学として現在に至り、多くの優れた医療人を輩出してきました。患者中心の医療“病気を診ずして病人を診よ”を理念とし、「医師と看護師は車の両輪」というチーム医療をいち早く実践しました。先進的な医学教育、国際水準の基礎・臨床研究に加え、本院（東京都港区）を中心とする4附属病院における高度医療から、地域の医療機関や本学同窓との連携を活かした地域医療に至るまで、世界の医学・医療を牽引しつつ、地域貢献を果たす大学をめざしています。

【富士市立病院の歴史・概要・特徴】

富士市立中央病院は、1949（昭和 24）年に町立富士中央病院として、東京慈恵会医科大学から医師の派遣を受け、診療科目 5 科、病床数 99 床で、静岡県富士市本市場に設立された病院です。その後、多くの診療科の新設、1984（昭和 59）年には現在の静岡県富士市高島町に移転、富士市立中央病院に名称変更し、診療科目 24 科、病床数 520 床の総合病院となっています。『地域の基幹病院として、市民の皆さまにより良い医療をやさしく安全に提供し、常に医療の向上に努めます。』を病院理念とし、救急医療も担う急性期病院として、市民に軸足を置いた医療を行っています。

【今後の取組み】

富士市立中央病院は、慈恵大学からの医師派遣を受け、医療および卒後教育を充実させます。一方、慈恵大学は、医学生の診療参加型臨床実習の教育病院として富士市立中央病院の協力を仰ぎ、臨床能力の高い医師育成につとめます。このような医療・医学教育の連携により、両機関が協力して医学・医療の進歩と地域貢献を果たしてまいります。



左から 学校法人慈恵大学 松藤 千弥 学長、栗原 敏 理事長、
小長井 義正 富士市長、富士市立中央病院 小野寺 昭一 院長

【問合せ先】

富士市立中央病院

〒417-8567 静岡県富士市高島町 50 番地

病院総務課

電話 0545-52-1131（代表） E-mail byoin@div.city.fuji.shizuoka.jp

学校法人慈恵大学

〒105-8461 東京都港区西新橋 3 丁目 25 番 8 号

法人事務局総務部広報課

電話 03-5400-1280（直通） E-mail koho@jikei.ac.jp